



2021年9月1日

株は買い？

京都橋大学教授
公益財団法人 国際通貨研究所 客員研究員
佐久間浩司

リーマン危機 2008 年、コロナ危機 2020 年と、危機の度に世界の中銀が量的緩和を拡大して、株価は上昇し続ける。一時的な調整があっても、結局次の上昇相場に向けたほどよい買い場に過ぎない。世界中の投資家はこのパターンをすっかり織り込んでしまった。一方で誰もが、中銀の緩和に支えられた株高は本物ではないという不安を抱いている。

もうこんなことが十数年も続いているが、この不思議を晴らしてくれる説明は 2 通りだろう。ひとつは、やはりとてつもない大きな調整局面がこの先待っているという暗い説明。もうひとつは、実は異次元緩和は株高の説明の一部に過ぎず、真の要因は、科学技術の進歩やイノベーションに支えられた生産性の向上だという明るい説明だ。

明るい説明を少し考えてみると、IT の活用によって GDP が生まれる現場は本当に変わった。Uber とか Airbnb などが出てきた時は、本当に革新的な発想だと思った。素人の運転する車に乗って、サービスの質はどう保証されるのか？ 見ず知らずの他人を家に泊めてトラブルになったらどうするのか？ そんな疑問も、IT が情報の非対称性を改善し、他人同士の信頼構築のハードルを大きく下げてくれた。そうした上に、新しいビジネスが可能になった。

「こういうのもありか」と思う革新的な発想は、コロナ禍でさらに広がっている。これまで大仰にスーツケース抱え飛行機に乗り時間かけてするものだった留学、世界規模のセミナーなどが、自宅の机の上で済むようになった。もちろん効果は対面型と全く同じではない。長い目で見たときの負の側面は甘く見るべきではないだろう。しかしそれにしても、これだけ低コストで一応済ませられるのは大きな驚きだ。

環境や地球の持続性の問題の捉え方も大きく変わり、それがビジネスの在り方を大きく変えている。これまで生産活動の中でコストとして見られていた要素が付加価値を生む材料と捉えられている。消費者や投資家が、そこにプラスの価値を見出すようになったのだ。よりよい地球、社会、人生とはどういうものかという根本的な考え方が、世界中で急速に変化しているのだろう。

科学技術の進歩によって、経済活動の長期的な因果関係が解き明かされて、製品ひとつひとつや、その中の部品ひとつひとつ、あるいは食糧生産の仕方のひとつひとつについて、長い目でみたら人類にとっての価値なのか負荷なのか整理され、それが今の価格に織り込まれ始めたということだ。最終的なお金の出し手の意識が変われば、今までビジネスではないと思っていたことがビジネスになり、新しい GDP 成長の材料となるのだ。

そう考えると、ここ 10 余年の株高というのは、単に異次元緩和中心で支えられてきたものではない気がする。中銀の量的緩和の規模が普通ではないのは確かだ。普通ではないものはいつか普通に帰り、戻る過程では何かよからぬことが起こると思うのは確かに不安だ。しかし、もしかしたらもっと大きなプラスの要因が働いているのかもしれない。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <https://www.iima.or.jp>